

触れあう・知りあう・今むかし

# 水分校区ウォーキング 散策MAP

雄大なる筑後の大河に育まれた、自然と歴史を培うわがまち水分  
そんな郷土の素晴らしいあんな事こんな事をのんびり歩きながら  
散策してみましょう

筑後川

西筑橋

景色も  
楽しもう

頑張ろう!

## 西まわりコース (6km)

水分小学校→東小田→  
西小田→立野→野中→  
青葉→高木→水分小学校

タオルや  
水分補給  
を忘れずに

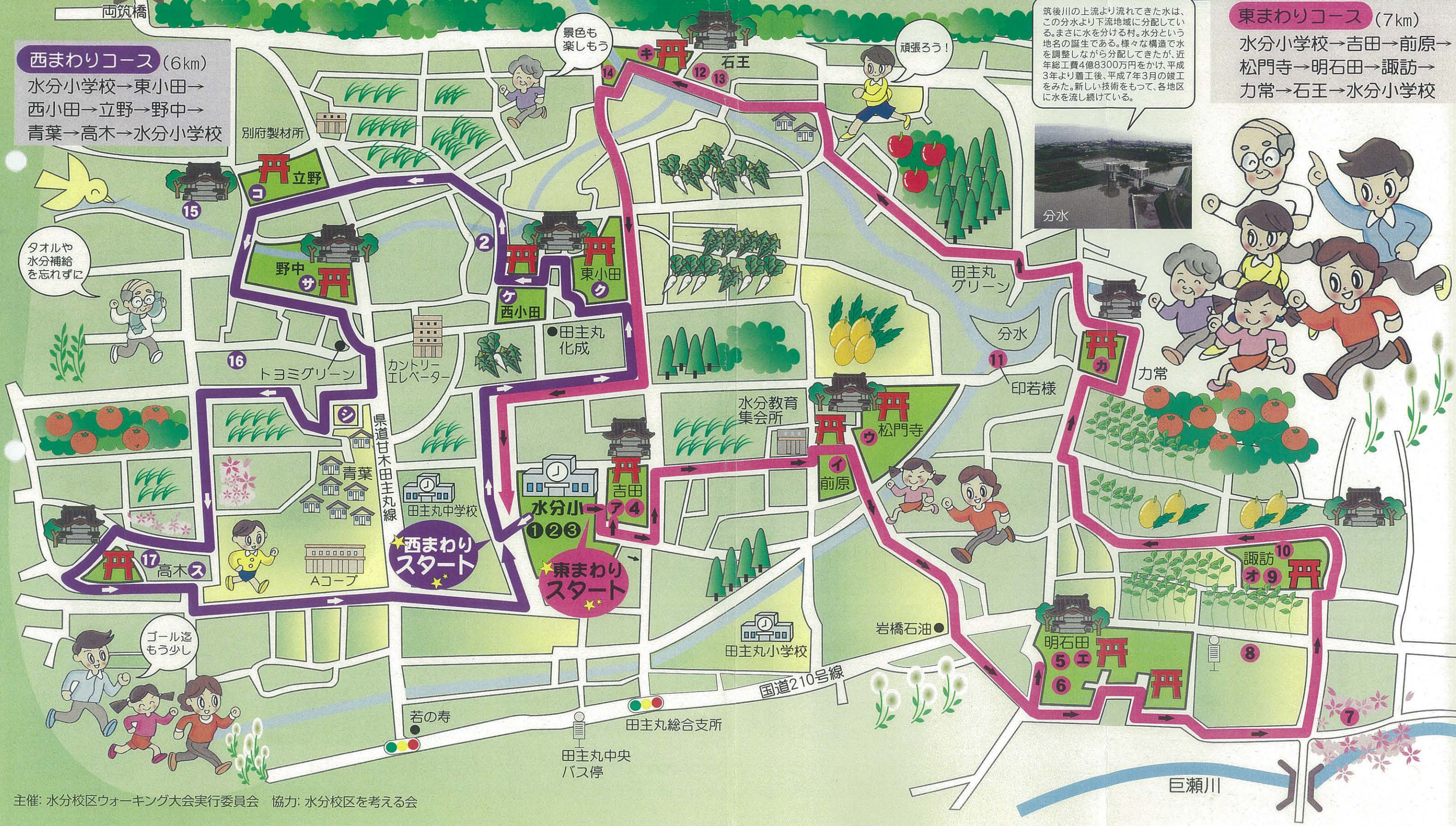
ゴール迄  
もう少し

筑後川の上流より流れてきた水は、  
この分水より下流域に分配してい  
る。まさに水を分ける村。水分とい  
地名の誕生である。様々な構造で水  
を調整しながら分配してきたが、近  
年総工費4億8300万円をかけ、平成  
3年より着工後、平成7年3月の竣工  
をみた。新しい技術をもって、各地区  
に水を流し続けている。



## 東まわりコース (7km)

水分小学校→吉田→前原→  
松門寺→明石田→諏訪→  
力常→石王→水分小学校





㉑吉田の天満宮

寛文10年(1670年)の「久留米藩社方開基」によれば、天神宮木像1体が納められている。毎年、11月10日に祭礼が行われていた。昭和52年福岡県遺跡等分布地図によれば、安土桃山時代に創建されたとされている。



㉒力常の天満宮

寛文10年(1670年)の「久留米藩社方開基」によれば、天神宮木像1体が納められている。古くから天神が祀られていたが、壊れてなくなっていたものを寛永15年先の庄屋彦兵衛という人が御神体を再興した。毎年11月3日に祭礼が行われていた。昭和52年福岡県遺跡等分布地図によれば、江戸時代に創建されたとされている。



㉓野中の天満宮

寛文10年(1670年)の「久留米藩社方開基」によれば、木像3体(勢至、阿弥陀、観世音)と、はいたか天神が納められている。また、昭和52年福岡県遺跡等分布地図によれば、安土桃山時代の天正年間に創建されたと伝えられている。



㉔水分小学校の大楠

300年は経つでしょうが樹高16m幹周り4mほどあります。江戸時代より雨風に耐えながら、戦争も経験しました。昭和28年の洪水にも負けずにこの水分校区を見てきました。そしてこれからも何百年、皆さんの安全を見ていきます。



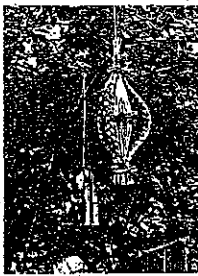
㉕諏訪区 筑後軌道創設者の碑

太田耕次郎氏は、1853年久留米藩士の長子として生まれたのが頭訪の重富氏の養子となり、田主丸小学校の教職につきその後は中学校の教授として活躍した人物です。その後、群政にかかわると、明治36年に筑後軌道株式会社常務取締役として活躍されました。子孫は、上京されてだれもおられませんが、江口さん一家が記念碑は見守られています。



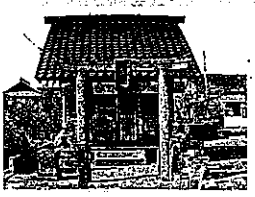
㉖石王区 ワラツト

4月15日早朝、葉を取りはぶいた小麦のわらでツトをこしらえ、その中にキビナゴをお供えする。もうひとつは、男竹の一節を切って竹筒を作り、神酒を満たす。それらを2組作り、1組は大川(筑後川)へ、残りの1組は、小川(古川)へ配る。これは、牛馬や子どもたちがカッパへ引かれないうよう水神様へ祈願するものである。



㉗前原の天満宮

今から、12年ほど前の平成8年に、古くなった天満宮を新築するため、前原区の集会所が開催され、神社建設委員会が結成された。作業は業者依頼せず、集落の人々の自発的奉仕作業で行うこととされたが、その中心的な存在となったのが林重鳴氏であった。重鳴氏は、大工ではなかったが、自分の仕事のかたわら、日曜日ごとに朝から晩まで通い続け、見よう見まねで、ついに平成9年11月天満宮を完成させた。最後の瓦ふきなどは、集落の人たちも総出で手伝った。入り口の上には、木彫りの像の頭が2つ祀られている。



㉘石王の稻生成神社

神社の境内に「石王270年記念碑」があり、昭和43年10月23日に建立されている。昭和43年から270年前は、1698年の江戸時代の元禄年間である。伝承によれば、石王集落の起源は、1637年の島原の乱に際し、島原から逃れてきた人たちがしばらく力常集落に滞在した後、石王の地に移り住んだのが始まりと言われている。集落の東に位置する墓地の中で、最古の墓石と思われるものに、享保年間(1716年~1735年)の記述があり、年代的には合致するものと推測される。



㉙青葉区の街並み

水分校区に新興住宅地として形成された青葉区。平成7年に区長が委嘱され、現在、36世帯にまで増加してきた。会社勤めの若い世代が多い。近年、公民館も建設され、新しいコミュニティ社会が着実に形成されつつある。



㉚吉田区 吉田観音

1599年(慶長4年)竹野郡吉田村の地に住む人々によってこの本尊の観音様が奉納されました。1756年には(宝暦6年)竹野郡三十三箇所観音霊場の第十番札所選ばれています。以来400年の時と共に吉田の地の栄枯繁栄を見守ってこれ、数多くの人たちの悩みや願い事を聞き、住民の心の拠り所として親しまれています。



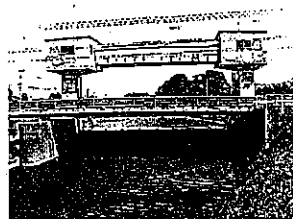
㉛諏訪区 植木発祥記念碑

明治初期までは、まだまだ大きな経済力は持っていなかったとはいえ、それでも今現在、植木・苗木の経営が成り立っているのは、江戸時代は元禄の頃より、伝統的な高度の技術を代々受け継ぎ今日に至っているからであります。今後若者達が、先輩方の並々ならぬご苦労と、先進技術とを同時に受け継ぎ、水分の地が更に発展するよう尽力を注いでほしいものです。



㉜石王区 石王の堰

昭和63年(1988年)に美津留川の河川改修と、古川より筑後川への放流の開門事業による水門。下流水域の住民が毎年雨期になると氾濫する古川でありましたが、この水門の完成により、オーバーフローした水を筑後川へ放流することによって氾濫が防げるようになりました。



㉝松門寺の日吉神社

寛文10年(1670年)の「久留米藩社方開基」によれば、山王権現木像7体が納められている。毎年11月初めに祭礼が行われていた。昭和52年福岡県遺跡等分布地図によれば、江戸時代に創建されたとされている。



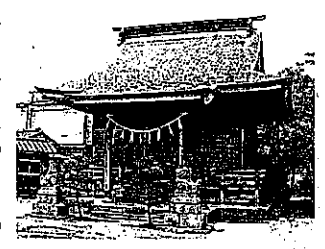
㉞東小田の天満宮

寛文10年(1670年)の「久留米藩社方開基」によれば、坂本大明神3体木像が納められている。祭礼は、9月27日中小田より神事を勤め、東小田は11月13日に神事を勤めていたとされている。また、昭和52年福岡県遺跡等分布地図によれば、江戸時代の創建と推測される。



㉟高木の高木神社

寛文10年(1670年)の「久留米藩社方開基」によれば、天神木像1体が納められている。毎年11月9日に神事を行っていた。また、昭和52年福岡県遺跡等分布地図によれば、安土桃山時代の天正年間に再建されたと伝えられている。



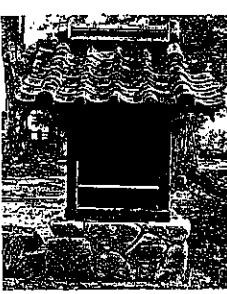
㊱明石田区 昭和天皇生誕祈念植樹のくすのき

第124代昭和天皇裕仁様の御生誕記念に植樹をされたクスノキです。1901年明治33年4月29日にお生まれになりました。1926年昭和元年12月25日即位をされ1989年昭和64年1月7日に89歳で崩御されました。



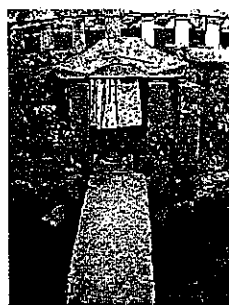
㊲諏訪区 異母様(いぼさま)

夜泣きを治す神様であります。夜泣きをする子ども枕元に異母様の周辺に付着している異母貝をそっと枕元にお供えすると、たちまちに泣き止み静かに眠りにつくという伝えのある神様です。泣き止んだ後は、また異母貝は異母様へ返しておきます。今の子どもたちにも効果抜群!!



㊳立野区 疣様(いぼさま)

立野の住民は、この神様のことを「いぼっさま」と呼びます。手や足に痛さとか不快感を与える疣なるものが人々を苦しめていました。今ではイボコロリなる新薬が現れて幸せな生活を送っていますが、昔は、この「いぼっさま」に頼まないで疣はとれません。このご神体周辺から湧き出でる神水を掛ければたちまちに治るという言い伝えの幻の湧水であります。立野区首さんでお話をされています。ぜひお試しください。



㊴明石田の八幡神社

寛文10年(1670年)の「久留米藩社方開基」によれば、3体の木像(春日大明神、応神天王、住吉大明神)が納められている。また、寛延記(1794年)によれば、草場庄の領主であった第15代草場兵九郎尉が京都の石清水八幡宮を勧請したものとされている。草場氏より田を一町寄附され、その場所は神田といわれ、神田のうち一反が祭田となっていた。



㊵西小田の天満宮

寛文10年(1670年)の「久留米藩社方開基」によれば、天神宮木像1体が納められ、毎年11月13日に祭礼を行っていた。また、昭和52年福岡県遺跡等分布地図によれば、この天満宮は、安土桃山時代の創建と推測されている。



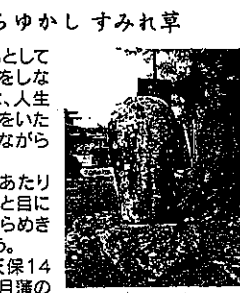
㊶水分小学校

平成16年11月に創立100周年を迎え一万人を超える卒業生を送り出しています。私たちは、この水分小学校を中心に、水分校区の発展と繁栄を祈願しながら水分校区を見つめています。



㊷明石田区 すみれ塚

山路来て 何やらゆかし すみれ草 三重県伊賀で農家の次男として生まれた芭蕉は、しばしば旅をしながら俳句を詠んだ。芭蕉は、人生を旅として本来病弱の身体をいたわりつつ厳しい修行を重ねながら旅を続けた。この句は近江の国大津あたりで、一人で歩いているときふと目に付いた可愛い陸草に心のゆらめきを覚えたという意味であろう。芭蕉が1843年(天保14年)に建設。芭蕉は、筑前秋月藩の出。明石田の芭蕉歌作の養子となる。以前はこの碑のかたわらに大株の芭蕉が茂っていた。



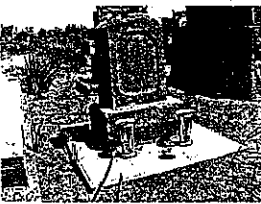
㊸力常区 印若天神(いんにやくてんじん)

印若様は、力常集落のほぼ中央に祭っております。鍵の神様として祭られ、水分の象徴である分水で田主丸地域を張り巡らす水流を調整しています。諏訪区の4軒の首さんで代々受け継がれ、今でも水の大切さを感じながら、毎年春祭りと夏祭りを執り行っています。



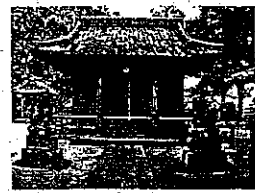
㊹野中区 久兵衛

1745年3月(宝暦4年)水分を中心に筑後一円まで拡大していった一揆。中心人物は、野中区に住む久兵衛さんでした。百姓一揆の数は日本全国で600を記録するほどありますが、宝暦の一揆として記録されているこの一揆は5本の指に入るほどの大きな一揆となりました。久兵衛さん以外にもこの水分校区には沢山の人が中心となって、農家の首さんのために礎を築いてこられました。この一揆に対しての資料は沢山あります。ぜひ読んでいただいて今後の私たちの生きていく糧として参考にしてください。



㊺諏訪神社

1540年頃より、氏神様として諏訪の信仰が始まり現在に至っている。毎年、旧座と新座に分かれて戸渡しが行われ、大きな杯いっぱい注がれたお神酒を交互に飲み干し、一年の家内安全、五穀豊穡を祈願している。春祭りと敬老会では、若者から年寄りまで参加し、祝宴を行い、特にその年に新築した家や新婚さんの家に立ち寄り、その家の繁栄を願った。また、昭和52年福岡県遺跡等分布地図によれば、諏訪神社は、室町時代の文安2年(1445年)、信州より諏訪明神を勧請したものとされている。



㊻立野の天満宮

寛文10年(1670年)の「久留米藩社方開基」によれば、天神木像1体が納められている。祭礼は、毎年11月初めに立野村・野中村の一箇所で神事を行っていた。昭和52年福岡県遺跡等分布地図によれば、江戸時代に創建されたとされている。



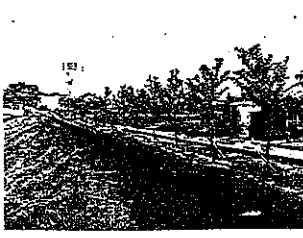
㊼水分小学校創立100周年記念碑

平成16年11月に創立100周年の記念事業の一環として、この記念碑が建てられました。この碑の下には、夢と希望をいっばい詰め込んだ未来へのメッセージが、タイムカプセルに収められています。2030年の11月14日に開封します。



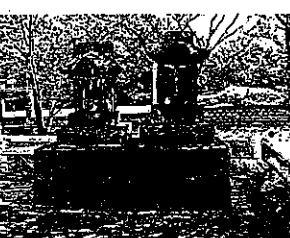
㊽諏訪区 諏訪の十三桜

2006年(平成17年)諏訪区内の青年による樹木生産農家13名が、十三会と言う組織を記念して、巨瀬川沿いに100本の桜を植栽しました。毎年成長するにつれ、満開を迎える春が待ち遠しくなることでしょう。



㊾石王区 成竹大明神

成竹とは、この堤防を記つてある地区の字名であり、昔この堤防が大雨のたびによく切れていました。そこでこの字名である成竹をこの堤防にお祀したところ堤防が切れなくなりました。今でも毎年祭典があります。



㊿高木区 五六様(ごろさま)

村内で火事が起きた時に、この五六様のご神体を水に浸せば早々に鎮火するという神様である。高木区民全体で五六様は祭られています。

